Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

4月号—No.264
2017.3.25
（毎月1回25日発行）

【グリーナリー（Greenery）】新緑を思わせるような爽やかな黄緑色。

世界標準となっている色見本帳で知られるパントン（Pantone）社が選んだ2017年のトレンドカラー。「春の訪れを呼び起こすフレッシュで華やかな黄緑の色合は、始まりや復活、新しさを感じさせる」というのが選考理由だとか。

●目次／*contents*

今月のニュース……2
ステージラボ豊田セッション報告
財団からのお知らせ……4
第17回地域伝統芸能まつり開催／ステージラボ高知セッション参加者募集／雑誌「地域創造」第41号のご案内
今月の情報……6
地域通信
制作基礎知識シリーズ Vol.40……10
文化プログラムに対する文化庁の取り組み
今月のレポート……12
宮城県大河原町　えずこホール20周年記念「えずこせいじん祝賀祭」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

●ステージラボ豊田セッション

座学から創作発表まで幅広いカリキュラム

ステージラボ豊田セッション報告

2017年2月21日～24日

写真

左上：迫りに乗るなどして、舞台の構造を学ぶ（ホール入門コース「コミュニケーション・ツールとしての舞台技術」）

右上：音楽コース、中川賢一さんと受講者による発表

左下：共通プログラムではフラッシュモブを体験。市内のショッピングセンターで成果を披露した

右下：最終日に行われた演劇コースの成果発表

●コースコーディネーター

◎ホール入門コース

林健次郎（公益財団法人愛知県文化振興事業団 愛知芸術劇場 企画制作部長代理 兼 広報・マーケティンググループチーフマネージャー）

◎自主事業Ⅰ（音楽）コース

榎本広樹（公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課長）

◎自主事業Ⅱ（演劇）コース

岩崎正裕（劇作家・演出家／劇団太陽族主宰、AI・HALL〈伊丹市立演劇ホール〉ディレクター）

今回は、トヨタ自動車が本社を置く企業城下町であり、オリンピック級のアスリートが多数在籍する中京大学が立地する豊田市で開催されました。会場となった豊田市民文化会館は、かつて挙母城（通称：七州城）のあった高台の一角に立地し、近くには国際的な建築家として知られる谷口吉生設計による豊田市美術館もあります。豊田市民文化会館を指定管理者として運営する豊田市文化振興財団はジュニアオーケストラの育成に力を入れ、現在、小学4年生から大学2年生までの64人の団員が活動しています。豊田セッションでは、ホール入門コース、音楽コース、演劇コースが開講され、共通プログラムでは中京大学ダンス部の和光理奈監督と一緒につくったフラッシュモブも披露されました。

●公立ホールの先輩がコーディネート

ホール入門コースと音楽コースのコーディネーターを務めたのは、かつてのステージラボ受講生であり、長年にわたって地域の公立ホールの現場で経験を積んできた先輩の林健次郎さんと榎本広樹さんです。林さんは扶桑町の扶桑文化会館、春日井市民会館、愛知県芸術劇場、榎本さんは、アウトリーチ活動で知られる小出郷文化会館、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館でホール事業に携わってきた実務家です。

ホール入門コースでは、豊田市民文化会館の舞台技術者が全面協力し、実際のホールで技術スタッフの仕事を学ぶゼミ「コミュニケーション・ツールとしての舞台技術」が行われました。綱元や迫りを実際に動かしながら危険な箇所を体験するとともに、音響の八の字巻きなどの基本技術を学びました。林さんは「舞台技術者と交流できないホール職員も多い。照明のバラシが手伝えるようになれば、事務職、企画職である受講生と舞台技術者との溝が埋まり、コミュニケーションを取るきっかけになります」と話します。

また、演奏者を理解するちょっと変わった試みも行われました。オーボエ奏者は音色を左右する木製リードを自分たちで手づくりします。今回は、演奏家の指導により、材料の葦の茎からリードを削る仕上げ作業を体験。そのリードを使った演奏にも耳を傾けるなど、演奏家の日常に触れるゼミとなりました。

音楽コースでは、榎本さんの経験を伝えるチケットセールス方法などの音楽事業制作ゼミが連日行われました。また、今回最も力を入れたのが、演奏家と受講生のコラボレーションによる創作ワークショップです。おんかつ支援登録アーティストであるピアニストの中川賢一さんと打楽

器・マリンバ奏者の宮本妥子さんの全面協力により、2チームに分かれて計7時間にわたる創作ワークショップが行われました。発表では、「現在・過去・未来」と「春夏秋冬」をテーマにした事前課題の作文を素材に、受講生のリーディングと音楽家による即興演奏でつくり上げられた緊張感溢れるパフォーマンスが披露されました。

●地域社会における演劇の有効性を学ぶ

演劇コースのコーディネーターを務めたのは、劇作家・演出家であり、伊丹市のAI・HALLディレクターでもある岩崎正裕さんです。今回は、「地域社会における演劇の有効性」をテーマに、教育現場で実際に行われているアウトリーチを体験するゼミや、演劇を地域活性化に有効活用している三重県文化会館の事例を学ぶゼミなどが行われました。

アウトリーチについてのゼミでは、地域創造のリージョナルシアター事業派遣アーティストとして豊かな経験をもつ劇作家・演出家／田上パル主宰の田上豊さんが講師となり、実際に学校で行っているワークショップの一端を体験。グループに別れて簡単な台本づくりを行い、劇場内で好きな場所を選んで発表しました。田上さんが、「台本はつくったグループが上演するのではなく、シャッフルし、発表後は必ず講評します。台本を交換するとスタート位置がフラットになり、書いた人の自意識から開放されて演出の自由度が広がる。他の人が演出することによって他者の想像力が入り、書いたチームは自分たちがつくったものを客観的に見ることができます。また、外部から来た人が講評することにより、演劇の見方を伝えることができますし、自己肯定感をつくり出すことができます」とプログラム構成について解説。何気なく受けていたワークショップの隠された意図を知り、受講生は納得の表情でした。

また、演劇による地域活性化事例では、公立ホールと民間小劇場を運営するNPOがタッグを組み、街中の飲食店で食事付きリーディングを行う人気企画「M-PAD」など、さまざまな事業を展開してきた三重県文化会館事業課長の松浦茂之さんとNPO法人パフォーミングアーツネットワークみえ代表理事／津あけぼの座・四天王寺スクエアプログラムディレクターの油田晃さんが講師として登壇。「他でやっていて面白いと思ったことはパクればいいと考えています。M-PADも仙台で行われている『杜の都の演劇祭』がモデルです。みなさんは劇場単位で考えていると思いますが、僕は津市という町単位で事業を考えてきました。本気で演劇をよくしようと思っている民間小劇場があるのだったら、そこと組んだ方がいいに決まっています。今では文化会館の事業を津あけぼの座でやるなど、官民協働でさまざまな連携を図っています」という松浦さんの取り組みは沢山のヒントで溢れていました。

このほか、受講生が俳優となり、岩崎さんと名古屋在住の鹿目由紀さんがラボのために書き下ろした短編台本を上演するなど、贅沢なプログラムとなりました。

オーボエ奏者の石田正さんらの指導でオーボエのリードを製作（ホール入門コース「ワークショップ『リードをつくる』」）

豊田セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業Ⅰ（音楽）コース	自主事業Ⅱ（演劇）コース
第1日	開講式・オリエンテーション		
	「イントロダクション」林健次郎	「アイスブレイク」榎本広樹	「自己紹介」岩崎正裕
		「イントロダクション& Goal！公演1ヶ月後、机の上には…」榎本広樹	
		「公演当日のアトモスフィア…そして、今日の宿題」榎本広樹	
		「ミニコンサート」宮本妥子、中川賢一	
	全体交流会		
第2日	「レクチャー＆グループワーク『文化政策を取り巻く環境』」米本一成ほか	「目覚ましディスカッション」「ワークショップ」榎本広樹	「アウトリーチから見える地域」山口英樹、津村卓
		「行動分析：チケットを買うということは」榎本広樹	
	「コミュニケーション・ツールとしての舞台技術」丹羽功、籾山勝人、浅野芳夫	「『伝える』技術」富永広紀	「演劇ワークショップ体験①」田上豊
		「マーケット・インか、プロダクト・アウトか」榎本広樹	
	「レクチャー＆グループワーク『公共って何だろう?』」米本一成ほか	「ワークショップ」宮本妥子、中川賢一	「演劇ワークショップ体験②」田上豊
	共通プログラム「『豊田の中心でモブが踊る!!』（フラッシュモブ体験）」和光理奈ほか		
第3日	「企画って何だろう？ 企画書って何だろう?」小松淳子、林健次郎	「目覚ましディスカッション」「プログラミング～何をやってもらうか」榎本広樹	「演劇事業による地域活性化①」松浦茂之、油田晃
	「ワークショップ『リードをつくる』」石田正、小室真美、水谷仁美、福田真規	「音楽家を探す～バック買いは、おいしい?」「公立ホール職員4つの役割と、Bereite dich」榎本広樹	「演劇事業による地域活性化②」松浦茂之、油田晃
	「ミニコンサート『目からうろこ、耳から???』」石田正ほか	「リハーサル」宮本妥子、中川賢一	「舞台創造のプロセスに参加する①」岩崎正裕、鹿目由紀
	「座談会『音楽家の日常』」石田正ほか		
	「ワークショップ『企画をつくろう！ 企画書をつくろう！』」林健次郎ほか	「本番」宮本妥子、中川賢一	「舞台創造のプロセスに参加する②」岩崎正裕、鹿目由紀
第4日	「プレゼンテーション」林健次郎	「目覚ましディスカッション」榎本広樹	「舞台創造のプロセスに参加する③」岩崎正裕、鹿目由紀
		「プランディングで集客 ～ファンになる人が集まる状態をつくろう～」井上美穂	
	「10年後の自分に手紙を書く」「まとめ～疲弊しないホール職員になるために」林健次郎	昼食・休憩、演劇コース見学	「発表公演と4日間のフィードバック」岩崎正裕、鹿目由紀
	修了式		

財団からのお知らせ

●第17回地域伝統芸能まつり開催

写真
第17回地域伝統芸能まつりのステージから
左：ひろしま安芸高田神楽（広島県安芸高田市）
右：フィナーレには出演者が勢揃い

●第17回地域伝統芸能まつり
[会期]2017年2月26日（日）
[会場]NHKホール（東京都渋谷区）
[主催]地域伝統芸能まつり実行委員会、一般財団法人地域創造
[実行委員]安齋尚志、板倉敏和、梅原猛、鎌田東二、香山充弘、佐藤文俊、下重暁子、田村孝子、山折哲雄、山本容子（50音順、敬称略）
[後援]総務省、文化庁、観光庁、NHK
◎演目・出演自治体
・エイサー
沖縄県うるま市
・御坊祭の「獅子舞」「四つ太鼓」
和歌山県御坊市
・浦浜念仏剣舞
岩手県大船渡市
・ひろしま安芸高田神楽
広島県安芸高田市
・狂言「梟山伏」
出演：野村又三郎ほか
・西馬音内盆踊り
秋田県羽後町
・東方組太鼓踊り
熊本県湯前町
・つきじ獅子祭
東京都中央区

今年の地域伝統芸能まつりは「妖（あやかし）～惑わされ、引き込まれ、狂わされ～」をテーマに、NHKホールで2月26日に開催されました。日本各地の地域伝統芸能7演目と古典芸能1演目が披露され、2,400人以上の観客を魅了しました。

まずオープニング前に伝統的な手品「江戸手妻」を藤山大樹が披露。続くオープニングでは、この日の出演者がテーマ曲『曼陀羅21』に乗って一斉に登場し、会場を活気づけました。

最初の演目は沖縄県うるま市の「エイサー」。沖縄の青い空と海を模した舞台で沖縄民踊に合わせて、パーランクーという片張りの太鼓を叩く色鮮やかな衣装の踊り手たちが舞台を埋め、華やかな幕開けとなりました。

次に、和歌山県御坊市の「御坊祭の“獅子舞”“四つ太鼓”」。力自慢の男性が12mの幟を差し上げ、獅子舞が勇ましく舞い、歌舞伎風化粧をした乗り子が叩く四つ太鼓が勢いよく舞台に担ぎこまれました。担ぎ手が太鼓台を高く持ち上げ、乗り子が大きく体を反らすと、会場からは歓声が上がりました。

岩手県大船渡市の「浦浜念仏剣舞」は、面を付けた踊り手が、供養のために香炉を掲げて焼香する動作で舞が始まり、続いて壮烈な剣舞と子どもたちの舞が披露され、舞の妙技に魅了されました。

広島県安芸高田市からは「ひろしま安芸高田神楽」を代表する「滝夜叉姫」が登場。きらびやかな衣装の登場人物たちが颯爽と舞い踊り、物語の展開とともに増す緊張感と舞の激しさに目が離せませんでした。

ここで趣向を変えて、古典芸能の狂言『梟山伏』が野村又三郎らによって演じられました。あやしげな梟に取り憑かれた狩人と山伏の滑稽な動作や「ホホーン」という鳴き声に笑いが溢れました。

そして、地域伝統芸能に戻り、地域伝統芸能まつり実行委員会の鎌田東二委員が秋田県羽後町の「西馬音内盆踊り」の起源や魅力を語り、石笛を奏でる中、幕が上がりました。やぐらの囃子方が唄い、舞台の両袖からは笠や頭巾で顔を覆った踊り手がゆったりと踊り出ます。踊り手たちが輪になると、舞台は夕方から夜に変わり、静かで幻想的な世界が広がりました。

続く熊本県湯前町の「東方組太鼓踊り」は、大きな兜をかぶった踊り手が源氏と平家に分かれて合戦の様子を表現します。抱えた太鼓を力強く打ち鳴らし、声を上げて入り乱れる迫力に観客は圧倒されました。

最後の演目は、東京都中央区の「つきじ獅子祭」が登場。巨大な重さ約1トンの雄獅子を男性120人が担ぎ、約700キロの雌獅子を女性100人が担ぎました。ワッショイと威勢よく獅子頭を担ぎ上げると、その熱気に会場が一体となって盛り上がりました。

会場の興奮が冷めやらぬ中、フィナーレには全出演者が再登場。客席からは、各地域で伝統芸能を保存・継承してこられた出演者の方々への敬意、そして今後への期待を込めた盛大な拍手が惜しみなく送られました。各地域の演目から伝統芸能がもつ魅力を再発見するとともに、その歴史や人々の暮らしに思いを馳せ、第17回地域伝統芸能まつりは幕を閉じました。

●ステージラボ高知セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。

今年度前期セッションは、高知県立美術館を会場に開催します。概要は以下のとおりです。詳細は、同封の募集要領でご確認ください。当財団ウェブサイトから参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしております。

募集締切：5月7日(日)必着

◎ホール入門コース(定員20人程度)

[コーディネーター]
大月ヒロ子(有限会社イデア代表取締役／国立歴史民俗博物館 客員准教授)
[対象者]公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む。)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織にあっては年数不問)の職員
[コース特色]地域の公立文化施設で働いていても、地元をあちこち歩き回り、そこに暮らす人々との対話を重ねる人は意外に少ないもの。しかし企画や運営の核となる種は、まさにそこに在ります。自分たちの足で歩き、さまざまな角度から丁寧に目を向け、豊かな気づきを得て、さらには、交流の中から生まれてくるものを育てていきましょう。

◎自主事業Ⅰ(音楽)コース(定員20人程度)

[コーディネーター]中村透(作曲家／芸術文化学博士／琉球大学名誉教授／(一財)地域創造顧問／前南城市文化センターシュガーホール芸術監督
[対象者]自主事業を実施している公共ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員
[コース特色]伝統音楽、ポップビートの音楽、クラシック音楽が混在する現代にあって、その多様な音楽の姿をどう地域に蘇生させ、社会的課題に適応させていくかを共に考え、実験的プログラムも創りながら追求します。

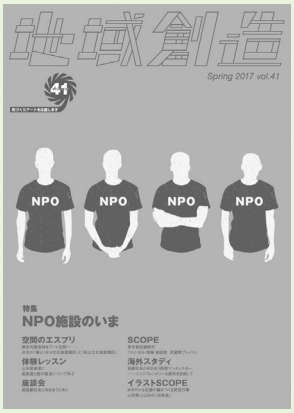
◎自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース(定員20人程度)

[コーディネーター]大谷燠(NPO法人DANCE BOX 理事長・エグゼクティブディレクター)
[対象者]自主事業を実施している公共ホール・劇場で、舞台芸術の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員
[コース特色]地域社会のもつさまざまな課題の解決に関して、劇場、舞台芸術がどのような役割を果たせるのか。鑑賞事業にとどまらず多様な角度から事業の立案を考察し、新しい劇場の可能性を探ります。

●ステージラボ高知セッション
[日時]2017年7月4日(火)～7日(金)
[会場]高知県立美術館(高知県高知市高須353-2)
◎参加申し込み方法
当財団ウェブサイト内の「様式箱」→「ステージラボ」より参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/
◎申し込み・問い合わせ
芸術環境部　宇野
Tel. 03-5573-4066
kensyu@jafra.or.jp

●雑誌「地域創造」に関する問い合わせ
芸術環境部　雑誌担当
Tel. 03-5573-4093

●雑誌「地域創造」第41号のご案内



公立文化施設等の職員を対象とした芸術環境づくりのための雑誌『地域創造』第41号を、3月25日に発行しました。
文化のまちづくりにおいて市民やNPOが大きな役割を担う現在、公立文化施設においてもNPOが指定管理者になり、また廃校活用などでも市民やNPOが活躍する事例も増えています。今号の特集では、NPOが運営する公立文化施設の最前線を紹介しています。ぜひご一読ください。

○特集「NPO施設のいま」

- 砂川市地域交流センターゆう(北海道砂川市)
- 木田金次郎美術館(北海道岩内町)
- 四谷ひろば(東京都新宿区)
- 加東市東条文化会館(コスミックホール)(兵庫県加東市)

○空間のエスプリ―国際的事例のビジュアルレポート

華山1914文化創意園区／松山文化創意園区(台湾)

○体験レッスン―公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授

山本能楽堂に能楽堂と能の普及について学ぶ(大阪市)

○座談会

超高齢社会と向き合うために

○SCOPE―地域の注目事例レポート

- ひと・まち・情報 創造館　武蔵野プレイス(東京都武蔵野市)

○海外スタディ―海外の文化政策・制度紹介

高齢社会と向き合う英国マンチェスター―エイジフレンドリーな都市を目指して

○イラストSCOPE―伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート

加勢鳥(山形県上山市)

○BOOK

『2240歳スタイル』(秋田市)

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造レター担当　宇野

●2017年6月号情報締切
4月28日(金)

●2017年6月号掲載対象情報
2017年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●札幌市
札幌芸術の森美術館
〒005-0564　札幌市南区芸術の森2-75
Tel. 011-591-0090　梅村尚幸
https://artpark.or.jp/

札幌美術展　旅は目的地につくまでがおもしろい。
札幌の美術を毎年さまざまな角度から紹介するシリーズ展。今年度は北海道ゆかりの作家8名による“旅の行程”を感じさせる表現を紹介。旅支度や道中の期待と不安が入り交じった感情、移りゆく景色、旅のもつ物語性やゲーム性などの要素を紡ぐ、絵画・写真・映像をはじめとした多様な作品を展示する。
[日程]4月8日～5月28日
[会場]札幌芸術の森美術館

●北海道旭川市
北海道立旭川美術館
〒070-0044　旭川市常磐公園内
Tel. 0166-25-2577　村山史歩
http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm

IFDA第10回記念　北海道立旭川美術館開館35周年記念　デンマーク・デザインの魅力　織田コレクションと旭川
近現代の椅子研究者として知られる織田憲嗣東海大学名誉教授が収集してきた世界的にも貴重なコレクションの中から、特に研究に力を注いできたデンマークの椅子を中心に、家具や日用品などの名品を紹介。また、織田コレクションが旭川地域の家具産業やデザイン文化、教育の発展に果たしてきた役割や、デンマークと旭川の家具製作の共通性についても幅広く検証する。
[日程]4月21日～6月25日
[会場]北海道立旭川美術館

ハンス・J・ウェグナー「ピーコック・チェア」(デザイン／1947年)

●岩手県盛岡市、花巻市
岩手県立美術館
〒020-0866　盛岡市本宮字松幅12-3
Tel. 019-658-1711　根本亮子
http://www.ima.or.jp/

没後90年　萬鐵五郎展
画家・萬鉄五郎の没後90年を記念し、岩手県立美術館と生誕の地・花巻市の萬鉄五郎記念美術館が初の共同展を開催。県立博物館での展覧会以来、20年ぶりの大回顧展となる。岩手県立美術館では油彩画や素描、周辺資料などを展示し、表現の本質・変化を読み解く。一方萬鉄五郎記念美術館では、水墨画に焦点を当てた展示を行い、油彩画制作との関連性について考察する。
[日程]4月15日～6月18日
[会場]岩手県立美術館、萬鉄五郎記念美術館

●秋田県横手市
秋田県立近代美術館
〒013-0064　横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel. 0182-33-8855　奈良・鈴木
http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html/

絵画×物語　描かれたストーリー
絵画によってイメージ化されてきた物語の数々。絵画に親しみをもって鑑賞する機会にしてもらおうと、中国の故事や日本の説話、絵本、小説の挿絵など、物語を基にした絵画作品を紹介する。素描や水彩画、日本画、版画などバラエティに富んだ作品約150点を展示する。
[日程]2月11日～4月16日
[会場]秋田県立近代美術館

関東

●群馬県高崎市
高崎映画祭
〒370-0831　高崎市あら町202
Tel. 027-326-2206　志尾睦子
http://takasaki.film.gunma.jp/

第31回高崎映画祭
コミュニティシネマ設立を志向する市民団体が母体となり、1987年に始まった伝統の市民映画祭。16日間にわたり、今年の作品賞受賞作『淵に立つ』をはじめ、邦画・洋画セレクション、昨年他界した巨匠アンジェイ・ワイダの追悼特集、シンガポールの俊英エリック・クー特集など、さまざまなカテゴリーに応じた数多くの映画が市内各地で上映される。バックステージツアーやトークイベントなどの関連企画も開催予定。
[日程]3月25日～4月9日
[会場]高崎市文化会館、高崎電気館、シネマテークたかさき ほか

●さいたま市
埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506　さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5503　松野・石井
http://www.saf.or.jp/

蜷川幸雄一周忌追悼公演　さいたまゴールド・シアター×さいたまネクスト・シアター『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』
故蜷川幸雄が率いた高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターの公演。2013年と14年に海外公演も成功を収めた代表作(清水邦夫作)を、蜷川の追悼公演として上演する。3年前の前回公演に引き続き、蜷川が率いたもうひとつの演劇集団、平均年齢28歳のさいたまネクスト・シアターから21名のキャストも出演する。

［日程］4月14日～16日
［会場］彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県市原市
いちはらアート×ミックス実行委員会事務局
〒290-0225　市原市牛久500
Tel. 0436-50-1160　富樫淳一郎
http://ichihara-artmix.jp/

いちはらアート×ミックス2017

2014年に、美術がもつ地域資源を顕在化する働き、多様な層の人々の協働を促す力を活かしながら、市南部地域を活性化させるために始まった芸術祭。廃校を活用し、小湊鐵道や市原湖畔美術館など多くの団体と連携。また地域住民と市外からのアーティストやボランティアが長期的に交流していくことで、新しいコミュニティが生まれた。2回目の開催となる今年は、キジマ真紀や豊福亮、開発好明、小沢敦志らのアーティストが参加。
［日程］4月8日～5月14日
［会場］市原市南部地域（小湊鐵道上総牛久駅～養老渓谷駅一帯）

●東京都目黒区
東京都写真美術館
〒153-0062　目黒区三田1-13-3（恵比寿ガーデンプレイス内）
Tel. 03-3280-0099
https://topmuseum.jp/

夜明けまえ　知られざる日本写真開拓史　総集編

公開機関をもつ全国施設に、幕末～明治期の初期写真や資料などの所蔵状況を調査、出品交渉を行い展示するシリーズ。初展示から10年目を迎える今年は集大成として、学芸員が特に重要と考える名品や国指定重要文化財など全374点（会期中、一部展示替え有り）を出品。当時の写真から世情や歴史上の人物の息吹を実感してもらう。幕末期の写真についての国際シンポジウムなども開催。
［日程］3月7日～5月7日
［会場］東京都写真美術館

鈴木真一《子供の武将》（明治時代中期／鶏卵紙に手彩色／後藤新平記念館蔵）

●東京都世田谷区
せたがや文化財団
〒154-0004　世田谷区太子堂4-1-1
Tel. 03-5432-1525　宇都宮萌
https://setagaya-pt.jp/

世田谷パブリックシアター開場20周年記念公演　狂言「唐人相撲」／「MANSAIボレロ」

4月に開場20周年を迎える世田谷パブリックシアターの記念公演。ユーモアあふれる狂言『唐人相撲』と、芸術監督・野村萬斎による独舞『MANSAIボレロ』の2本立て。現在上演されている狂言の中で最も人数を要する『唐人相撲』では公募で選ばれた約15人が1週間の稽古を経て、能舞台で本番に臨む。5日の劇場開場記念日には劇場友の会会員および世田谷区民を対象にした招待公演「トーク＆パフォーマンス『MANSAIボレロ』」を開催。
［日程］4月5日、7日～9日
［会場］世田谷パブリックシアター

『MANSAIボレロ』　撮影：政川慎治

●東京都国立市
くにたち市民芸術小ホール
〒186-0003　国立市富士見台2-48-1
Tel. 042-574-1515　斉藤かおり
http://www.kuzaidan.com/hall/

inc.percussion days 2017 in くにたち市民芸術小ホール

打楽器奏者の加藤訓子がプロデュースする、若手の育成（インキュベーション）を目指したプロジェクト。ギャラリーやロビーなど施設全体を使って、能のすり足勉強会、立体映像を使ったイベントなどが行われる。また金子泰士や上床直人、小野周二らによる打楽器のリサイタルを行い、最終日には加藤による演奏で締めくくる。
［日程］3月31日～4月2日
［会場］くにたち市民芸術小ホール

●東京都武蔵野市
武蔵野文化事業団
〒180-0006　武蔵野市中町3-9-11
Tel. 0422-54-8822　和田能
http://www.musashino-culture.or.jp/

《武蔵野市民文化会館リニューアル・オープン記念特別公演》ウィーン・アカデミー管弦楽団“ベートーヴェン交響曲全曲演奏会”

リニューアル・オープンを記念して開催される4日間の連続公演。ウィーン・アカデミー管弦楽団だけでなく、第九のソリスト4名も海外から会館が単独で招聘する。指揮はマルティン・ハーゼルベック、合唱は新国立劇場合唱団（合唱指揮：冨平恭平）。4回公演のセット券など、特別料金の設定もあり。
［日程］4月20日～23日
［会場］武蔵野市民文化会館

●川崎市
川崎・しんゆり芸術祭2017実行委員会事務局
〒215-0004　川崎市麻生区万福寺1-12-1　クロスアベニューⅡ8F
Tel. 044-952-5024
http://www.artericca-shinyuri.com/

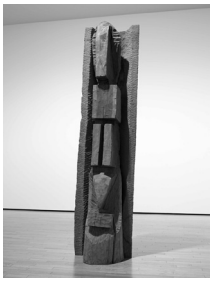
かわさき・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）2017

音楽や演劇、伝統芸能、映画などさまざまな分野の演目が揃う総合芸術祭として9回目を迎える。今年はオープニングを藤原歌劇団のオペラ『セビリャの理髪師』が飾り、フィナーレの東京交響楽団演奏会には大友直人（指揮）と小川典子（ピアノ）が出演。このほかスターダンサーズ・バレエ団によるバレエ『ドラゴンクエスト』や、人間国宝の友枝昭世と山本東次郎による競演、春風亭昇太や林家木久扇を迎えての落語など大人から子どもまで楽しめる演目が揃う。
［日程］4月22日～5月14日
［会場］小田急線新百合ヶ丘駅周辺、多摩市民館、宮前市民館

●神奈川県葉山町
神奈川県立近代美術館
〒240-0111　三浦郡葉山町一色2208-1
Tel. 046-875-2800　橋秀文
http://www.moma.pref.kanagawa.jp/

砂澤ビッキ展

旭川市に生まれ、“木魂”を彫るかのような独特な彫刻を北海道で制作し続けた砂澤ビッキ（1931～89）の、本州の公立美術館では初めての個展。20歳代の一時期を鎌倉で暮らし、亡くなる直前には神奈川県民ホールで展覧会を開き、神奈川県とのゆかりも深い。彫刻約20点、アクリル絵画や素描約50点を展示することで、知られざる側



砂澤ビッキ《TOH》（1985年／神奈川県立近代美術館蔵）　撮影：山本糾

面に光を当て、その創造の秘密を探る。
[日程]4月8日～6月18日
[会場]神奈川県立近代美術館 葉山

北陸・中部

●石川県金沢市
いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭実行委員会
〒920-0856 金沢市昭和町20-1
Tel. 076-232-8111
http://www.gargan.jp

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭

「ベートーヴェンが金沢にやってきた」をテーマに、金沢をはじめとする北陸の各地が音楽であふれる音楽フェスティバル。能舞とクラシックの共演や、邦楽・日本舞踊など伝統芸能の花舞台、吹奏楽の祭典など5つのプログラムで構成される。北陸の市民オーケストラが一堂に集結し、150人の合同演奏で奏でる『運命』など、地元演奏家や子どもたちと共に楽しむ参加型プログラムなどが多数行われる。
[日程]4月28日～5月5日
[会場]石川県立音楽堂、金沢アートホールほか

●岐阜県岐阜市
岐阜県教育文化財団
〒502-0841 岐阜市学園町3-42
Tel. 058-233-8164 河合篤賢
http://www.g-kyoubun.or.jp/jimk/plaza/

地歌舞伎推進プログラム「清流の国ぎふ 春の地歌舞伎公演2017」

岐阜県では毎年複数の地歌舞伎保存団体が公演を行う「地歌舞伎推進プログラム」を展開しており、そのひとつとして行う歌舞伎公演。出演は下呂市白山神社の境内に芝居小屋をもつ白雲座歌舞伎保存会。2020年には県下全域の地歌舞伎保存団体が一堂に会する公演を予定している。
[日程]4月8日
[会場]ぎふ清流文化プラザ

●岐阜県大垣市
大垣市文化事業団
〒503-8601 大垣市丸の内2-29
Tel. 0584-81-4111 岩島麻紀子
http://www.city.ogaki.lg.jp/0000034587.html

2017大垣音楽祭

プロ演奏家を招き、市民の音楽文化の向上を願って毎年開催される音楽の祭典。今年は初めてオーケストラ(中部フィルハーモニー交響楽団)を招きコンサートを開催するほか、指揮者・水戸博之から直接合唱の指導を受けるなど、プロの演奏や技術を間近で体験できる。また市民公募によるスプリング合唱団2017が、オーケストラやソリストと共演する。
[日程]4月1日～5月21日
[会場]大垣市スイトピアセンター

●静岡市
SPAC–静岡県舞台芸術センター
〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4
Tel. 054-203-5730 内田稔子
http://www.spac.or.jp/

ふじのくに⇄せかい演劇祭2017

国内外の多彩な舞台芸術を、静岡の地で体験できる演劇祭。SPAC20周年となる今年は、宮城聰演出『アンティゴネ ～時を超える送り火～』を、駿府城公園の特設会場で上演するほか、ドイツのニコラス・シュテーマン、フランスのジゼル・ヴィエンヌの日本初演作、演出家タニノクロウが、舞台芸術公園で滞在制作・上演する新作『MOON』など5カ国7作品が上演される。また昨年に引き続き「ふじのくに野外芸術フェスタ」も同時開催。
[日程]4月28日～5月7日
[会場]静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園ほか

●静岡市
静岡市美術館
〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
Tel. 054-273-1515 以倉新
http://www.shizubi.jp/

Shizubi Project 6 彼方へ 國府理×林勇気×宮永亮

多くの人が行き交うエントランスホールで現代のさまざまな美術の姿を紹介するシリーズの6回目。今回は「彼方へ」と題し、3名の現代美術家の作品を展示。世界が隅々まで探索され、急速に映像化される現代において、世界の彼方やメディア(デジタル世界)の彼方、心の彼方などへと、3人の作品を通して誘う。6月4日以降の約2週間は、展示会場をさらに展示室にも拡張する。
[日程]3月28日～6月18日
[会場]静岡市美術館

國府理《Sailing Bike》(2005年)

近畿

●神戸市
「ジャズの街神戸」推進協議会
〒650-0017 神戸市中央区楠町4-2-2
Tel. 078-351-3597 三島美智代
http://www.kobe-bunka.jp/

KOBE JAZZ DAY 2017

日本のジャズ発祥の地とされている神戸で、4月4日を「KOBE JAZZ DAY 4/4(エイプリルフォース)」と制定し、毎年記念イベントを開催。ジャズの力により神戸の街を活性化していく。3回目の今年は、2016年10月に結成後、プロミュージシャンによる指導で練習を続けてきた神戸市近郊在住のジャズ好きの中学生・高校生たちによる神戸ユースジャズオーケストラが神戸文化ホールでデビューする。
[日程]4月2日
[会場]神戸文化ホール、大倉山公園

神戸ユースジャズオーケストラ(2017年2月／神戸ファッション美術館 オルビスホール)

中国・四国

●岡山県真庭市
真庭エスパス文化振興財団
〒719-3214 真庭市鍋屋17-1
Tel. 0867-42-7000 岡村一郎
http://kuse-espace.jp

ミュージカルVivo第16回エスパス公演『森の木陰に吹く風は』

真庭市を拠点に活動しているミュージカルグループVivoの定期公演。3歳から19歳までの計47人が出演。第1部は、2006年に公演したオリジナルミュージカル『森の木陰に吹く風は』のリメイク版を上演。子どもたちの個性や成長に合わせて脚本、大道具、楽曲、衣装を手づくりしている。第2部は、ダンス&バレエ『VIVO WORLD』を上演。
[日程]4月1日、2日
[会場]エスパスホール

●広島市
広島市現代美術館
〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1
Tel. 082-264-1121 松岡剛
https://www.hiroshima-moca.jp/

殿敷侃:逆流の生まれるところ

社会的なテーマへの取り組み

や、地域住民との協働による制作が再評価されている、没後25年を迎える広島ゆかりの作家・殿敷侃の活動を包括的に振り返る。“逆流”とは、晩年に作家自身が制作に対して用いた言葉で、本展はその意味や作家からの問いに答えるヒントとなる作品が展示される。
［日程］3月18日～5月21日
［会場］広島市現代美術館

●広島県安芸太田町
あきおおた国際音楽祭実行委員会
〒731-3810　山県郡安芸太田町戸河内759-1
Tel. 090-7540-8975　中川圭子
http://akiootakokusai.info/

あきおおた国際音楽祭 with Bechstein

戸河内ふれあいセンター設立時に寄贈されたピアノが、ベルリン・フィルハーモニーホールで実際に使用された名器ベヒシュタインであったことから、ピアノを通して音楽で繋がることを目的に始まった音楽祭。7回目となる今回は、バイロイト祝祭管弦楽団のメンバーによるヴァイオリン四重奏団の演奏とマスタークラスを開催。
［日程］4月2日
［会場］戸河内ふれあいセンター

●山口県下関市
コルトー音楽祭実行委員会
〒759-6301　下関市豊浦町大字川棚5180（コルトーホール内）
Tel. 083-774-3855　増田玲子
http://www.kawatananomori.com/

第8回川棚・コルトー音楽祭『京都フランス音楽アカデミー特別演奏会』

20世紀を代表するフランス人ピアニスト、アルフレッド・コルトーが唯一行った来日公演（1952年）で滞在し、永住を望むほど魅了された川棚で、2010年から始まった音楽祭。コルトーが設立した音楽院と教育提携する京都フランス音楽アカデミーの協力を得て、フランスから2名の招聘教授を迎え、室内楽コンサートを行う。
［日程］4月3日
［会場］下関市川棚温泉交流センター 川棚の杜・コルトーホール

●徳島県徳島市
勘緑&木偶舎、阿波十郎兵衛屋敷
〒771-0114　徳島市川内町宮島本浦184
Tel. 088-665-2202　佐藤憲治
http://joruri.info/jurobe/

じょうるりに行こうセッション vol.8「チェロ+人形」

浄瑠璃人形遣いの勘緑が、人形浄瑠璃の新たな可能性を求め、さまざまな芸術分野とセッションを行う「じょうるりに行こう」シリーズ。昨年3月からスタートし、創作ダンスや箏、太鼓、藍染めの衣装などとセッションを行ってきた。今回はベルギー在住のフランス人チェリスト、スタン・デュゲとのコラボレーション。曲目は、バッハの『無伴奏チェロ組曲第1番』、黛敏郎が義太夫節をモチーフに作曲した『BUNRAKU』など。
［日程］4月7日
［会場］徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

浄瑠璃人形遣い 勘緑

●香川県高松市
香川県立ミュージアム
〒760-0030　高松市玉藻町5-5
Tel. 087-822-0247　瀧上華
http://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/index.html

クロスポイント／交差する視線 20の表現

香川県出身・ゆかりの作家20名の作品を紹介する展覧会。絵画、彫刻、写真、映像、インスタレーションなど、年齢層もジャンルも多様な作品を展示することにより、多彩な視点や表現の手法などを探っていく。出展作家によるトークショーやワークショップなども開催。
［日程］4月15日～6月4日
［会場］香川県立ミュージアム

●愛媛県東温市
東温市企画財政課
〒791-0292 東温市見奈良530-1
Tel. 089-964-4401　桑原・山本
http://www.city.toon.ehime.jp/life/life_theme/gyousei/tiikisinkou/shimin_myuzikaru/

東温市ミュージカル『城ノブ』～愛媛のマザー・テレサ～

明治から昭和にかけて活躍した東温市出身の社会事業家・城ノブの生涯を題材とした市民参加ミュージカル。市の新たな魅力の発信と市民一人ひとりが活躍するまちづくりを目指し、歴史・文化・伝統をテーマとした演目を数多く手がけてきた坊っちゃん劇場の協力を得て制作。公募により集まった市民55人が半年にわたる稽古の成果を披露する。
［日程］4月29日、30日
［会場］坊ちゃん劇場

九州・沖縄

●長崎県佐世保市
アルカスSASEBO
〒857-0863 佐世保市三浦町2-3
Tel. 0956-42-1111　田上・古賀・川村
http://www.arkas.or.jp/

アルカスSASEBOジュニアオーケストラ第5回定期演奏会

設立5年目の節目となるジュニアオーケストラの定期演奏会。現在90人が在籍し、ミュージックアドヴァイザーであるヴァイオリニスト豊嶋泰嗣のほか、長崎県内外の音楽家が幅広く指導に当たっている。関連企画として、練習見学や楽器体験を通して、地元講師が地域の子どもたちにオーケストラの魅力を伝える「オーケストラとふれあおう！」を開催（4月8日）。
［日程］4月29日
［会場］アルカスSASEBO

アルカスSASEBOジュニアオーケストラ

●宮崎県宮崎市
宮崎国際音楽祭事務局
〒880-8557　宮崎市船塚3-210（宮崎県立芸術劇場内）
Tel. 0985-28-3208　花田昌明
http://www.mmfes.jp/2017/

第22回宮崎国際音楽祭

1996年から開催しているクラシックの音楽祭。今回から音楽祭のメインビジュアル・デザインを日本画家・立山周平の手により刷新。国内プロオーケストラの首席クラスの演奏家で構成する宮崎国際音楽祭管弦楽団のほか、ピンカス・ズーカーマン、ミッシャ・マイスキー、ライナー・キュッヒルら多くの世界的な海外演奏家も出演する。前回からスタートした「Oh! My! クラシック」と題する著名人を起用したトーク・コンサートなど、裾野を広げるための企画も開催。
［日程］4月28日～5月14日
［会場］メディキット県民文化センター ほか

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

●制作基礎知識シリーズ Vol.40「文化プログラムに対する文化庁の取り組み」

組織委員会の認証を受け、レガシーになる事業を文化プログラムとして展開

制作基礎知識シリーズ Vol.40

文化プログラムに対する文化庁の取り組み

講師　山名尚志
（株式会社文化科学研究所代表）

●2つの文化プログラム

まず初めに、文化庁が「文化プログラム」と呼んでいる対象を整理しておこう。

レター2017年1月号の制作基礎知識シリーズVol.38で紹介したように、東京2020大会に関する公式の事業（東京2020大会やオリンピック、パラリンピックの名称、マーク、エンブレムなどが利用可能なもの）については、すべて大会組織委員会が管理している。文化領域について言えば、組織委員会が「文化オリンピアード」の公認、もしくは応援プログラムとして認証しているプログラムがそれに当たる。これが文化庁が言う「文化プログラム」の1つ目である。

2つ目は「beyond2020」と呼ばれる事業だ。これは、内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部が中心となって実施している事業で、「日本文化の魅力を発信するとともに、2020年以降を見据えたレガシー創出のための文化プログラム」と位置づけられている。

このbeyond2020でも公式のロゴマークを作成し、2017年1月より利用の認証を開始するなど、組織委員会の「文化オリンピアード」に類似した展開を行っている。ちなみにbeyond2020のロゴマーク申請には「文化オリンピアード」への参画申請のような厳しい制限はなく、営利・非営利の別なく、任意団体を含めて、幅広く利用が可能である。

ここでひとつ注意しておかなければならないのは、beyond2020が「東京2020大会の公式の事業ではない」ということだ。もちろん、国がこうした事業を展開するのは、東京2020大会の開催が前提となっている。しかし、組織委員会が関与していない以上、オリンピックに関連する名称やマークは一切使用できない。国の政策的な位置づけとしてはオリンピックの関連事業だが、beyond2020のロゴマークを使った事業の実施に当たって「オリンピック関連」と公に告知することはできないのである。

●文化庁の取り組み

文化庁としては、「文化芸術の振興に関わる基本方針：第4次基本方針」に定められた文化庁自身の東京2020大会への政策指針に従いつつ、上記2つのプログラムに“参画する”ことになる。この点についてだけ言えば、文化庁は他の参画主体と立場的に変わらない。2017年3月1日現在、文化庁では合計21の「公認文化オリンピアード」事業を主催しているが、そのいずれも組織委員会に対して正式に申請し、認証を受けたものだ。

とはいえ、もちろん2つの文化プログラムの展開において文化庁が主導的な役割を果たさないわけではない。実際、2017年度について文化庁では、文化プログラムの推進に関連する予算として329億円を計上しており、積極的な取り組みを進めつつある（既存事業の継続を含む）。その内、予算323億円とそのほとんどを占めているのが、「国が地方自治体、民間とタイアップした取組の推進」である（他の事業としては、国立文化施設の多言語対応や夜間開館などの機能強化、公立・私立の文化施設の多言語対応支援など）。

「国が地方自治体、民間とタイアップした取組の推進」は大きく2つのプロジェクトに分かれている。ひとつは文化庁等が主催するプロジェクトで、「文化庁芸術祭」「文化庁メディア芸術祭」「国民文化祭」「全国高等学校総合文化祭」などの既存の大型事業もここに組み込まれる（こうした既存事業も、2020年に向けては、申請・認証を経て、文化プログラムという位置づけを与えられることになる）。

もうひとつは地方公共団体、民間等が主催するプロジェクトへの支援である。これについては、地方公共団体等の公募に対し、文化庁が助成金を付ける枠組みとなる。なお、助成金が採択されたとしても、自動的に2つの文化プログラムのいずれかに認証されることにはならない。認証に当たっては、当該事業の主催者である地方公共団体等から組織委員会もしくは内閣官房への申請が必要となる（文化プログラムに申請するかどうかは、採択された側の任意の判断）。

●文化庁「文化プログラムの推進」
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/2020_bunkaprogram/index.html

●beyond2020プログラム
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/beyond2020/

●文化庁主催のプロジェクト

文化庁が主催のプロジェクトについては、既存事業の継続のほかに、新規取り組みのため「戦略的芸術文化創造推進事業」(2017年度予定額701百万円)が用意されている。これは、全国の芸術団体・関係機関等に、

①全国各地の有形・無形の文化資源を掘り起こし、その積極的な活用や新たな文化振興モデルの構築を図る

②総合的にアーツプロジェクトを企画・実施できる人材育成とそのネットワーク形成を図る、

③全国各地の文化活動・資源を国内外に発信する

などの枠組みで企画を公募するもので、採択されたものが文化庁の委託事業として文化プログラムの認証に進むこととなる。

この事業に関連して注目すべき点が2つある。ひとつは、上記の②の取り組みに向け、全国芸術系大学コンソーシアム(JUCA)が2016年7月19日に設立されたことだ。これは、国立4・公立10・私立42の芸術系の56大学が集まった初めての全国組織であり、すでに各大学の事業を紹介するポータルサイトの開設や、文化庁庁舎において若手芸術家の作品展示を行う「アーツ・イン・文化庁」等のプロジェクトを展開している。こうした芸術系大学の協働が実現に至ったことは、文化芸術分野におけるレガシー構築の大きな成果であり、今後の動きが期待される。

もうひとつは、上記の③の取り組みとして、文化情報プラットフォーム(具体的にはデータベースやポータルサイトなど)の構築が進みつつあることだ。日本の文化芸術活動の情報発信、特に外国語での世界への発信は必ずしも十分な水準に達していない。文化情報プラットフォームの構築に関しては、こうした課題の解決として、東京2020大会時だけでなく、文化芸術を契機とした日本へのインバウンド需要拡大のためのレガシーとしての役割発揮(例えば各地域の文化芸術活動や文化資源の世界的なPRのきっかけづくり等)が期待される。具体的内容については2017年度中にもある程度明らかになる予定だ。

●地方公共団体、民間等が主催するプロジェクトへの支援

地方公共団体、民間等が主催するプロジェクトの支援としては、「文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業」(2017年度予定額2,960百万円／17年度についての公募はすでに終了)が用意されている。この中心となる「文化芸術創造拠点形成事業」(予定額2,400百万円)は、2016年度まで「文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」(文化芸術グローカル化推進事業)として公募されていたもので、地方公共団体が主体となり、地域の芸術団体や産学官とともに取り組む地域の文化芸術資源を活用した事業の支援(上限原則8,000万円)、地方公共団体等による文化事業の実施体制構築の支援(上限原則2,000万円)等が行われる。採択された場合は、文化プログラムの認証を受けることが推奨されている。

「文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業」については、上記グローカル化事業の継続に加え、2017年度より「先進的文化芸術創造拠点形成事業」(2017年度予定額2,960百万円／17年度についての公募はすでに終了)が新設されている。この事業の特徴は、事業の継続性を重要視し、原則5年間の継続補助となっていることだ。この事業も、採択された場合は、文化プログラムの認証を受けることが推奨されている。

以上見てきたように、文化庁の取り組みは、既存事業や既存予算を、組織委員会もしくは内閣官房の認証制度への参画を通じて、文化プログラムへと関係づけるものが多くなっている。とはいえ、こうした取り組みにより、結果として2020年に向けて多くの「文化プログラム」が世に出ていくことになることは確実である。

この流れをどのように自地域の文化振興、地域づくりに活用していくか。そのための工夫が求められている。

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

宮城県大河原町

えずこホール20周年記念「えずこせいじん祝賀祭」

上：住民総出演にアーティストが加わったグランドフィナーレ　©乾祐綺
下：観客や住民団体が取り囲むステージで、中川賢一×野村誠が2台ピアノのためのオリジナル曲『テキストのたね』(作曲：野村誠＆ワークショップ参加者)ほかを演奏

●えずこホール(仙南芸術文化センター)
1996年開館。大ホール(802席)、平土間ホール(300席可動)、練習室など。開館当初から住民参加型文化創造施設を掲げ、音楽や演劇、ボランティアなどの各種住民グループを育成するとともに、住民企画、住民参加事業、アウトリーチを積極的に展開。宮城県が設置し、当初は大河原町など2市7町の広域行政事務組合から委託された仙南文化振興財団が運営。指定管理者制度への移行に当たり、広域行政事務組合による直営に移行。町長や文化協会の代表などによる運営委員会の下、住民等が参加した「えずこ芸術のまち創造実行委員会」が事業を企画・実施。現在、管理運営費は大河原町が67%、残りを柴田町と村田町が人口割合で負担。

●えずこせいじん祝賀祭
[会期]2017年3月4日、5日
[主催]えずこ芸術のまち創造実行委員会、仙南地域広域行政事務組合教育委員会

＊藤浩志　現代美術のアーティスト、秋田公立美術大学アーツ&ルーツ科教授。各地で数多くのアートプロジェクトに携わる。えずこホールとは10周年記念事業「十年音泉」で住民と一緒に舞台美術をはじめさまざまなものづくりを行って以来の付き合い。

「え？ このホールって20年間で何百本ものアウトリーチ活動をやってきたの？」

宮城県大河原町にある「えずこホール」。その20周年記念企画を考えていたスーパーバイザーの藤浩志(*)は、ある日の打ち合わせの席でそう叫んだ。「ええ、数えればもっとありますけど」と、スタッフは事も無げに言う。

「そういう地域のための活動をしてきたのなら、それを見える化しようよ」。藤の言葉で、企画は大きく動き出す。結果、「えずこせいじん博覧祭」(成人、星人、聖人などをかけたダジャレ)と銘打ち、昨年7月から阿武隈蔵王エリアを舞台に地元の阿武隈急行に乗車するアートイベントや、築100年を超える旧家を使った発表会などさまざまなアウトリーチが行われ、3月4日、5日のフィナーレ「えずこせいじん祝賀祭」で締めくくった。

●

開館当初から職員として関わり、現在は館長を務める水戸雅彦は、「この20年で訪れた場所は250カ所、参加したアーティストは音楽・ダンス・演劇・美術など75名、届けたプログラムは717回。今年だけで100本のアウトリーチをやりました。アウトリーチのような活動は外には見えづらいので、映像を撮影し、アーカイブをつくることにも力を入れました」と胸を張る。その活動は、建物のガラス窓に貼られた夥しい数のカードにも“見える化”された。カードには、「2013,03,07七ヶ宿町、ゆりの里、俳優、岩淵吉能」など、活動のすべてが記されていた。

宮城県の約5分の1を占める2市7町という広域を対象にした施設のため、来場者だけでは住民の5%程度しかカバーできない。「ならば出掛けて、残りの95%に文化を味わってもらおう」と、開館10年目あたりから本数を増やしてきた。

その集大成が今回の祝賀祭だった。4日、オープニングを飾ったのは、庭の芝山の向こうからリズミカルに登場した子どもダンサーたち。2010年からえずこに通い、学校でのアウトリーチをしてきたダンサーの楠原竜也が子どもたちと2日間ワークショップを行った成果だ。大ホールでは、現代音楽家の野村誠が演出家やダンサー、アートマネジメント研究者という異分野の仲間たちとコラボする「門限ズ」の前衛パフォーマンスに、白石高校吹奏楽部やつくしの会児童合唱団などの子どもたちが絡むステージもあった。10周年記念事業「十年音泉」(レター07年4月号参照)の総合監修・演出も行った野村は、「この地域の子どもたちはたった2日間のワークショップでどんなことも受け入れて本番がやれる。凄いことです」とその柔軟性を讃える。

えずこと13年の付き合いになるピアニストの中川賢一はISOPP+GOODmenとのコラボレーションを披露し、ホールを拠点にするAZ9ジュニア・アクターズ、えずこシアター、えずこ☆ゴスペルなども次々登場。2日間、約10時間にわたってアーティストと住民の交流が続いた。

「これだけできるのもアーティストと長く付き合っていてお互いに信頼感があるから」と水戸が言うと、アーティストたちも「やりたいようにやらせてくれる遊び場」(音楽家・片岡祐介)、「実験的なことができるから刺激的。明日はペインティングとダンスとピアノのコラボをやります」(中川)、「以前はストリートダンスなんて世の中に認められなかったけど、えずこを通して学校でやれるようになり、世の中に認知された。僕は日本一学校を沢山訪問したストリートダンサーになりました」(ダンサー・ISOPP)と親しみを滲ませる。

トークショーに登場した83歳になる男声合唱団の高橋良知は、住民たちの気持ちを代弁するかのように、「ホールの開館と同時に男声合唱団も生まれました。当初は楽譜も読めなかったけれど、今では歌うことは生きる喜びであり、生きる力を与えてくれています」と言った。

ホールのカウンターでは、おにぎりや飲み物を売りながら、ボランティアたちが「ここに来ると色々なことがあって楽しいの」と笑った。

この20年間で建物の周囲には大型店舗が増え、風景はずいぶん変わったけれど、えずこホールに行けばいつでも不思議なアーティストにも会え、楽しく活動できる。

「こんな偶然が重なったホールはずっと続かないといけない」

アーティストたちは口々にそう言った。

（ノンフィクション作家・神山典士）